

第 10 回「東大路通歩行空間創出推進会議」

議 事 摘 録

日時 平成 28 年 9 月 5 日（月）

午後 3 時 15 分から午後 4 時 45 分まで

場所 東山区役所大会議室（3 階）

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 改善策等の検討状況について
 - (2) 平成 28 年度の予定について
- 3 閉会

【配布資料】

- ・ 議事次第, 委員一覧, 配席図
- ・ 資料 第 10 回「東大路通歩行空間創出推進会議」資料



写真 開催状況

1 開会

【開会の挨拶】

(佐伯政策監:京都市)

- ◆ 本市では、東大路通の安心・安全な歩行空間の創出につきまして、これまでこの会議を含めて委員の皆様方から多大なる御協力を賜りながら、今日まで慎重に検討を進めてまいったところです。
- ◆ 第9回の東大路通歩行空間創出推進会議では、現時点で道路の二車線化を実施するのではなく、今後の交通状況等をしっかりと考慮しながら中長期的に検討していくということについて報告した。
- ◆ またその一方で、東大路通が抱える急な歩道勾配やバス待ち環境が整っていない等の課題について、交通影響が少なく効果的な改善策の検討を進めていくことを報告した。
- ◆ 本日の会議では、東大路通が抱えている個別の課題に対する改善策について、これまでの検討状況を含めた具体的な内容を提案させていただきたい。
- ◆ なお、本日提案する改善策の内容の一部については、先ほどの東山交通対策研究会でご説明をした秋の観光地交通対策と連携した社会実験を予定しているため、東山交通対策研究会委員の方にも引き続き出席をお願いした次第です。
- ◆ 東大路通において歩行空間の創出を図るためには、本日ご出席を賜っております委員の皆さまを始め多くの皆様方から、様々な観点でお知恵を頂戴することが不可欠であると考えております。本日も東大路通の安心・安全な歩行空間創出の実現に向けて、忌憚のない活発な御意見を賜りますようお願い申し上げます。

(議長)

- ◆ 従来の道路整備では、行政の独断で計画を進めてきたが、東大路に関してはみなさんの意見を伺いながら整備を進めていくという仕組みで取り組んでまいりました。本日もぜひ建設的なご提案を頂きたいと思います。

2 議事

【事務局による資料説明】

- ◆ 議事 1「改善策等の検討状況について」
- ◆ 議事 2「平成28年度の予定について」

【質疑応答】

(議長)

- ◆ 資料説明では、歩道環境の改善、バス待ち環境の改善、歩行者の回遊性向

上の3つの柱を示してもらった。また、過去の会議の中で意見のあった社会実験についても取り組むとのことである。

- ◆ 改善策等の検討状況、平成28年度の予定について御意見を頂きたい。

(地元代表)

- ◆ 以前の会議で私から提案した東大路駅の設置について、昨年、京都市の建設局の方を現地に案内し、設置が可能だと説明させていただいた。東大路駅の設置に併せて、現在の掘割構造を暗渠にしてパークアンドライド駐車場にすることができれば、地域の活性化に繋がると考えられる。今回の報告に含まれていないため、残念に思っている。
- ◆ 東大路通の渋滞については、一番問題なのは東山五条交差点で北行右折ができるということであり、北行右折を禁止にすれば渋滞対策になるのでは？

(事務局)

- ◆ 地元要望として今熊野橋以东のJR線路上を駐車場として使えないかという意見が出ていることは認識している。東大路駅については、多額の事業費が掛かるということで、現状で整備を進めることは困難な状況です。
- ◆ 東山五条北行右折については、以前は右折禁止であった。ただし、その右折禁止が原因で、手前の馬町から一旦左に曲がって細街路に入っていくという状況があり、生活道路の安全性も含めて、さまざまな検討をされた結果、今の右折ができる状況になったと確認している。渋滞対策は重要な問題だととらえており、交通管理者等と相談しながら必要な対策について検討を進めていきたい。

(地元代表)

- ◆ 3点お聞きしたいことがある。1点めは、具体的なスケジュールを提示してほしい。2点めは、社会実験は四条から五条が中心となっており、五条以南でも社会実験を行うなど、平等に実施していただきたい。3点めは、フォーシーズンズホテル京都と京都市の間で覚書がまだ交わされていない点。地元とホテル側は協議を行い、覚書を作成した。9月30日にプレオープンを抑えているが、それで間に合うのか？
- ◆ いろいろな提案は出していただいているが、できないものはできないとはっきり言ってもらって、それならどうしたらよいか意見を出しあうことが本来の会議の目的だと思う。例えば、先ほどの東大路駅は行政ができないと言っているので無理だと思う。

(事務局)

- ◆ 1点めのスケジュールについて、今回の社会実験や測量、現場の調整等を踏

まえて、来年度以降のスケジュールを、今年度末を目処に示したいと考えている。

- ◆ 2点めの社会実験の範囲について、まずは課題の集中している四条～五条間で社会実験を実施し、効果検証をしたい。その上で東大路全体に効果的な改善策を広げていきたいと考えている。
- ◆ 3点めのフォーシーズンズの覚書については、再度建築指導課に状況を確認する。

(藤谷委員(代理出席:永田氏):京都市建設局道路建設部道路環境整備課)

- ◆ 建設局の道路環境整備課が、歩道環境の改善のうち、電柱の集約、移設と横断勾配の改善を担当する。スケジュールについて補足すると、地元の皆さまの御理解、御協力をいただけることが前提であるが、2020年東京オリンピックに向けて、できることについては早急に取り組みたいと考えている。

(地元代表)

- ◆ 今回の取り組みは地元住民に情報提供し、地元要望や意見を踏まえたうえで進めるとあるが、意見交換会はどのようなものと考えているのか？

(事務局)

- ◆ 5月～6月に各学区で町内会長が集まれる定例会に参加させていただき、第9回推進会議の内容について、情報提供をさせていただいた。基本的には、その時と同じように町内会長が集まる場で意見交換ができればと考えているが、どういった単位で開催するのが良いか区役所等と調整していきたい。

(地元代表)

- ◆ 可能であれば町内単位で意見交換会を開催してもらえれば助かる。

(議長)

- ◆ 道路に面しているところとそうでないところで、事業による影響の大きさが違うので、必ずしも全ての町内で意見交換会を開催する必要はないと考えられるので、地元と調整しながらすすめてもらいたいと思う。

(地元代表)

- ◆ フォーシーズンズホテル京都の遊歩道を活用することだが、遊歩道の幅員が3mあるのに対し、現状の歩道幅員は1.2m程度である。行政が民地に依存しないと歩道を安全に通行できないというのはいかがなものか。
- ◆ 馬町付近では、スピードをだして歩道を走る自転車があり、そのまま遊歩道に入ると危険である。行政として、歩行者が遊歩道を通り、自転車は遊歩道を通

行しないような標識を設置し、歩行者の安全を担保してほしい。

(事務局)

- ◆ ホテルや地域の皆様と相談しながら、できることを検討していきたい。

(議長)

- ◆ 民地部分を公共空間として活用することについては、行政として過去の実績があると思うので、同じような工夫をしてもらえたらありがたいと思う。

(地元代表)

- ◆ 無電柱化については取り組まないのか？
- ◆ 道路空間の再構成について、先ほどの説明だけでは十分理解できていないため、もう少し補足説明をお願いしたい。

(藤谷委員(代理出席:永田氏):京都市建設局道路建設部道路環境整備課)

- ◆ 無電柱化するには、地上機器を新たに設置する必要があり、現状の歩道幅員の中で地上機器を設置することは、さらに歩行空間を狭めることになる。そのため、無電柱化は2車線化とセットで実施していく必要がある。
- ◆ 無電柱化ができない現状では、通行の支障となっている電柱等の移設・集約を行うことで歩行空間を確保していきたいと考えている。

(事務局)

- ◆ 道路空間の再構成、いわゆる2車線化については、現時点では交通影響が大きいと長期的に検討していくこととしている。当面は、現状の交通状況等をしっかり把握していくという取り組みを実施していく予定である。

(副議長)

- ◆ 歩道勾配をバリアフリーの基準である2%にすることは困難であるため、東大路通の整備目標値を設定するとあるが、三条～七条間のうち何割程度で整備目標値を満たすように考えているのか。
- ◆ 整備目標値は何%をイメージしているのか？

(藤谷委員(代理出席:永田氏):京都市建設局道路建設部道路環境整備課)

- ◆ これから道路と民地の境界部分等の詳細な測量を進めていくため、何割程度を整備していくことになるか現状では把握していない。
- ◆ 整備目標値の具体的な数値については、例えば、縦断勾配に8%という基準がある。横断勾配に適用できるかどうか判断が必要ではあるが、目標のひとつとして考えていけるか検討していく。

- ◆ 今後実施する測量で今まで以上に詳細な高さを調査し、整備目標値を決めていきたいと考えている。

(副議長)

- ◆ 例えば、整備目標値を8%として、現状で15%の歩道を8%にしようとした際、どうしても8%にならない場合、整備目標値に届かなくても10%で整備するということになるのか？
- ◆ 現状で勾配が急な箇所が整備目標値に届かないからといって、そのままほっとかれることがないか危惧している。

(藤谷委員(代理出席:永田氏):京都市建設局道路建設部道路環境整備課)

- ◆ 例えば整備目標値を8%として、15%と9%の歩道のどちらを先に整備するか、整備目標値を下回っている箇所についてはどうするのか等については、今後、判断する必要がある。
- ◆ 事業費の問題もあるが、沿道の方の協力なくしては勾配の改善は行えるものでないため、御理解をいただいた箇所等、工事着手できるところから整備を進めるということを考えている。

(副議長)

- ◆ 会議に参加するために、五条坂バス停から歩いてきたが、この勾配の急な区間も歩道の高さを変えることができれば、勾配が緩やかになり歩きやすくなると思います。

(藤谷委員(代理出席:永田氏):京都市建設局道路建設部道路環境整備課)

- ◆ 指摘箇所の歩道勾配を改善するには、車道と歩道の間にある、歩車道境界ブロックと街渠板の高さを変えることが最もわかりやすく効果がある方法である。ただ、これらの構造物をさわると車道の高さも変えることになり、影響範囲が広く大規模な工事となってしまう。
- ◆ この構造物の高さを変えないで、歩道の勾配改善を図るためには、一部は既に施工されているように歩車道境界ブロックを擁壁化して歩道と車道に段差を付けるか、民地側の高さを車道と同じ高さに上げるかの2つが現実的な方法と考えている。

(地元代表)

- ◆ 10年ぐらい前にこの東大路の勾配の問題について調査してもらったことがあった。それから10年経っても、まだ歩きにくいままである。ぜひ今の担当者の任期中に実施してほしい。

(副議長)

- ◆ いわゆる明治の京都の三大事業で整備した東大路は約 100 年歴史があるが、根本的には 100 年前と同じ状態で利用されてきている。
- ◆ 約 40 年前、急増する観光客のマイカーに対応するため市電を廃止したが、根本的に道路形態を作り替えることをせずに、その上に舗装を敷いてしまった。そのため、現在色々な問題が生じている。
- ◆ 近年は集中豪雨が増加傾向にあるが、特に西側は雨水が敷地や家のなかに入ってくることが懸念されるため、雨水に配慮した整備を進める必要がある。
- ◆ 今後、2020 年東京オリンピックに向け、東山への観光客が増加することが想定される。社会実験をしながらひとつずつの課題に対応することは重要であるが、百年後の東大路をどうするのか、大きな視点での議論が必要だと思う。

(地元代表)

- ◆ 東大路通の整備は事業費が大幅に必要な大規模事業であるので、もはや行政レベルの話ではなく、費用が掛かっても事業を進めるという政治決断も必要ではないだろうか。

(議長)

- ◆ 今日の議論のなかで、改善策の方向性について大きな異論はなかったと思うので、この方向性で進めていただきたい。
- ◆ 3月に社会実験等の検証結果を提示し、より詳細なスケジュールが示されることであるので、また皆様の御意見をいただきたいと思います。
- ◆ 市においては会議での意見を踏まえて、検討を進めていただければと思う。

3 閉会

【閉会の挨拶】

(高畑委員:京都市都市計画局歩くまち京都推進室)

- ◆ 本日議論させていただいた内容について、今後の検討のなかに反映をさせていきたいと考えております。
- ◆ 東大路通が抱える歩道勾配、バス待ち環境等の喫緊の課題に対する改善策につきまして、今後整備に向けたスケジュールをお示しするとともに、引き続き地域の皆さまと十分な協議を重ね検討を進めていきたいと考えている。

(以上)